



研究発表会の準備ができました

第 14 回研究発表会は、10 月 22 日から 24 日までつくば国際会議場（エポカルつくば）で開催されます。口頭発表、ポスター発表、特別講演、日韓シンポジウム、市民展示、小集会、施設見学会などの企画を準備しています。

最近では、市民にも開かれた一般公開企画が催されていますが、今年は特別講演と市民展示がそれにあたります。特別講演は、「神の子たち」「忘れられた子供たち / スカベンジャー」を撮影された映画監督四ノ宮浩氏によるご講演です。市民展示としては、特別講演関連の展示、つくば市民の活動紹介や廃棄物学会誌 C&G コーナーなどが予定されています。

つくば市はまだまだ交通が不便なところですが、つくばセンターにバスで入るのは比較的簡単ですが、一部立地の良いホテルを除いて、会場への移動には時間がかかります。ご遠方よりお越しの方は、地元のバスを使った移動方法に関して、ホテルや会場受付にてお確かめください。

懇親会を除いたすべてが、つくば国際会議場にて開催されますので、大変便利です。遠くの筑波山、近くの歩道での少し早い紅葉を見ながら、つくばでの研究発表会をお楽しみください。

さて、実行委員会では 3 回の会議を開きながら、研究発表会運営の準備をしまいいりました。その過程で、特に、研究発表会の直前に強調したいことがいくつかできてきましたので、お知らせいたします。

講演論文集には、CD-ROM 版と印刷版があります

多くの参加者のご要望に応じて、今年が目玉として、CD-ROM 版を導入することになりました。事前に参加申込みされた希望者の方には、10 月上旬に CD-ROM 版を郵送済みです。会場では、CD-ROM の閲覧・印刷サービス等はありませんので、ご注意ください。事前にご希望された方には印刷版を当日配布いたします。（ただし、参加証については発送済み）。当日に印刷版を申込みの場合はご希望に添えないことがありますので、ご了承ください。また、CD-ROM 版、印刷版の両方を購入される方には、通常の参加費に 3,000 円が加算されます。

口頭発表に液晶プロジェクタを導入します

今年の 2 つ目の目玉として、液晶プロジェクタが本格導入されます。口頭発表ガイドラインでもお知らせしましたとおり、液晶プロジェクタの使用は、発表で使用するファイルを 10 月 10 日必着で学会事務局宛に送付いただいた方に限らせていただきます。今年は液晶プロジェクタ導入元年ですので、いろいろ不自由をおかけします点、ご了承ください。なお、液晶プロジェクタを使用されない方は、例年どおり OHP をご使用いただきます。

ポスター掲示・撤収期間にご注意

今年はポスター発表を充実させており、発表件数は 184 件（日本語 146 件、国際 38 件）と大変多くなりました。掲示しなければならない期間は、10 月 22 日 13:00 ~ 10 月 23 日 17:00 です。最長で、10 月 24 日の 11:30 まで掲示できますので、できる限り 3 日間掲示してください。撤収は必ず発表者の責任でお願いします。撤収時間が過ぎた場合には、会場スタッフがポスターを撤収・廃棄しますが、毎年多大な負担となっていますので、ご協力ください。

最優秀ポスター賞の表彰は懇親会で

優れたポスターの内、最優秀ポスター賞の表彰は懇親会で行います。受賞対象者は、総合受付付近の掲示板で 2 日目（10 月 23 日）18 時までに発表しますので、ポスター発表者は掲示をご確認ください。受賞者は、ぜひとも懇親会（有料）にご参加下さい。なお、審査方法が変わりましたので p.2 の年会委員会からのお知らせをご覧ください。

昼食について

会場付近で、昼食を取るところが十分にありません。そのため、今回は、会場内で弁当を販売いたします。特別講演会場（大ホール）・第 1 会場（中ホール）・第 2 会場（中ホール）での飲食はご遠慮下さい。なお、持参された弁当容器などのごみは、各自お持ち帰り下さい。

今回の施設見学会では、下記の2箇所の研究所を回る1コースのみとなります。定員は50名です。研究発表会初日(10月22日)から先着順にて受付いたします。

- ・(独)国立環境研究所
(循環・廃棄物研究棟、環境ホルモン総合研究棟、地球温暖化研究棟)
- ・(独)産業技術総合研究所
(環境調和技术研究部門、化学物質リスク管理研究センター等)

それでは、筑波山のガマガエルともども、お待ち申し上げます。

(実行委員会 寺園淳 記)

☐ ☒ 年会委员会 ☐ ☒ ☐ ☒ ☐ ☒ ☐ ☒ ☐ ☒ ☐

優秀ポスター賞審査のお願い

年会委員会では、多くの方に見ていただくことができ、また、議論の時間を十分とることのできるポスター発表を重視しております。そのためにもなるべく多くの方に審査していただくことが重要と考え、第14回廃棄物学会研究発表会では、優秀ポスター賞の審査を正会員、学生会員、および登録団体市民会員の方をお願いすることにいたしました。ご希望の方は、ポスター会場受付において、「氏名、所属、会員資格」を投票者名簿にご記入の上、投票用紙をお受け取りください。（投票者の登録及び投票用紙の交付は、ポスター発表時間以外も行います。）

ポスター発表は2日にわたって行われますが、1日目(10月22日)午後1時(ポスター貼付終了時間)から2日目(10月23日)午後1時までの間に投票を済ませてください。その後集計を行い、最優秀ポスター賞(3件程度)、優秀ポスター賞(9件程度)を決定いたします。

積極的なご参加をお願いいたします。

九州支部

平成15年7月26日

九州支部

総会・講演会 開催報告

平成 15 年 7 月 29 日(土) 福岡市城南市民センターにて、平成 15 年度九州支部総会及び講演会が開催されました。

はじめに、花嶋正孝九州支部長（福岡県リサイクル総合研究センター）から、来年、北九州市にて開催される第3回アジア太平洋埋立会議（APLAS 2004 北九州）への協力の呼びかけと「ここ九州から学会に流れを起こしていこう」との挨拶がありました。総会では、会則の定める定数（正会員数の4分の1以上）を越える出席数（正会員出席者54名、委任状59名、計113名）を得て、平成14年度における事業報告と収支決算報告、監査報告、平成15年度における活動計画案と収支予算案の審議を行い、いずれの議案も満場一致で原案通り承認可決されました。

総会終了後に行われた講演会では、杉本勝氏（監査法人トーマツ）より「環境 NPO の現状と廃棄物学会九州支部の果たす役割」、周北海氏（中華人民共和国駐日本国大使館）より「中国における廃棄物問題と今後の展望」と題するご講演がありました。各講師からは、貴重な経験談や有用な情報を参加者に提供して頂き、NPO や他学会等の各種団体や地域との連携した支部活動のあり方、さらにはアジア諸国の

一番近くに位置する九州支部の役割といったことを改めて考える機会となりました。

講演会終了後、場所を福岡大学に移して懇親会が行われました。講演会の講師と約 50 名の会員の方々が参加し、会員相互の近況報告や情報交換、学会活動に関する意見交換が活発になされ、本行事は盛会裏に終了しました。

(九州支部 岡重男 記)



▲ 総会の様子

委員会活動報告

その2 (総務委員会、国際委員会)

総務委員会

総務委員会は、学会の運営管理、廃棄物学会ニュースの発行、役員選挙、表彰などの活動を分担している。

当委員会が取り扱う多種の仕事の中では、学会活動をより活発に進めて頂くための予算に関する事項が最も大きなテーマであるので、以下これを中心に報告する。

総会で承認された平成 15 年度の予算は、収支とも 115,127 千円として、現在執行されつつある。収入の内訳の中で、多くの割合を占める賛助会員会費については、前年までは、問題なく推移していた。しかし、今年度に入り退会などの申し出も増えている。賛助会員会費は、収入として年間 3,600 万円を計上しているが、この数値が達成できるかどうかが懸念されている。もし、不幸にして、想定された収入が得られないようになると、予定している学会活動の変更も余儀なくされる事態にもなりかねない。

そこで、当委員会としては、当初予算に計上した収入を確保するための具体的な活動に入るべく、当

委員会の中にある会員増強担当委員が、早急に入会勧誘を図るべき団体、会社などを、リストアップした。このリストを先日の理事会に提案した結果、これを基に、理事、評議員の方々に入会勧誘を分担して頂くことに決定した。また、リサイクル促進関連の法律が次々と施行されているため、これに関連する団体、企業に焦点を絞ることも一つの方法だとの意見を受け、その作業も進めている。さらに、6 支部が設立されたので、支部活動の一環としても、地方の団体、企業への勧誘を是非協力をお願いしたいと考えている。

学会発足当初は、全員で手分けして会員数拡大の勧誘を行ったと聞く。勧誘活動は、会員全員の協力が無ければ成果は上がらないと思われる。会員の皆様の協力をお願いします。

最後に、当委員会でも更なる学会活動の広がりを目的として、支部活動を強化するための各種施策も検討している。成案が出来次第、理事会に諮り実施して行きたいと考えている。

(総務委員会 藤本忠生 記)

国際委員会

英文ニューズレター

国際委員会では発足以来、NEWSLETTER を発行し、学会の活動とわが国の廃棄物管理のトピックスを英文で紹介してきた。現在は季刊で、No.45 (July) まで発行している。なお、昨年 7 月 (No.41) からは会員への配布方法を郵送から電子配信に変更した。最新号及びバックナンバーは学会ホームページ (<http://www.jswe.gr.jp/international/>) から随時入手できる。また、海外 NL 会員へは希望に応じ PDF ファイル付きで E-mail 配信している。

韓国廃棄物学会との交流

廃棄物学会は、平成 8 年 5 月に韓国廃棄物学会と交流協定を結び、国際委員会が交流事業の担当窓口となっている。その一環として、毎年、日韓それぞれの研究発表会には国際セッションを設け、相互に多数の研究者が参加している。今秋の廃棄物学会研究発表会には韓国から約 40 名の参加が予定されており、ポスター発表としての国際セッションと右記のシンポジウムを開催する。

テーマ : 「日韓の EPR の現状と課題

- EPR で廃棄物問題を解決できるか - 」

日 時 : 10 月 22 日 (水) 13:00-15:30

場 所 : 第 8 会場 (つくば国際会議場 3 階)

使用言語 : 英語

基調講演 : 佐野敦彦 (国際委員会)

パネラー : (日本) 田中 勝 (岡山大学)

大塚 直 (早稲田大学)

(韓国) Sung-Bong KIM (韓国環境省)

Hi-Sun LEE (韓国環境研究所)

コーディネーター : 杉山 涼子 (国際委員会)

(国際委員会 四阿秀雄、杉山涼子 記)

【お知らせ】

■□■□ 企画委員会 ■□■□■□■□■□■□

市民と学生のためのセミナー

「ガス化溶融炉の現状と今後の廃棄物処理」

セミナー内容

- (1) ガス化溶融炉の現状と将来性
川本克也（(独)国立環境研究所）
三村正文（石川島播磨重工業株）
- (2) 川口市のガス化溶融炉導入について
- (3) 朝日環境センターガス化溶融炉の概要
- (4) ガス化溶融炉等施設見学

開催概要

開催日時：平成 15 年 11 月 17 日(月)13:30～16:30

開催場所：川口市朝日環境センター内リサイクルプラザ 4 階研修室（川口市朝日 4-21-33）

参加費：1,000 円 当日会場にて申し受けます。

定員：80 名

申込方法：往復はがきに、氏名 勤務先 住所
電話番号を明記し、申込先へ送付して下さい。（返信はがきに返信先住所・氏名を記入して下さい。）

申込先：〒108-0014

東京都港区芝 5-1-9 豊前屋ビル 5F

廃棄物学会事務局

市民と学生のためのセミナー係

申込期限：平成 15 年 11 月 4 日（火）

新刊紹介

『リサイクル・適正処分のための

廃棄物工学の基礎知識』

田中信壽編著 松藤敏彦・角田芳忠・東條安匡共著

発行所：技報堂出版株式会社（TEL:03-5215-3165）

定価：2,800 円（税別）

学会事務局は、研究発表会開催のため、

10月21日(火)～10月24日(金)

は不在となります。

会員状況

H15.8.31 現在

() 内は、H15.4.1 以降の増減

正会員	3,653 (97)
学生会員	319 (52)
外国人会員 (DM)	24 (6)
公益会員	114 (2)
賛助会員	193 (-13)
登録団体市民会員	2 (2)
計	4,305 (146)

注) 外国人会員(DM)は、廃棄物学会外国人等会員規程第4条に定める会員を示す。

廃棄物学会ニュース No. 77 平成15年10月10日発行

廃棄物学会 〒108-0014 東京都港区芝 5-1-9 豊前屋ビル 5F

Tel.03-3769-5099 Fax.03-3769-1492

<http://www.jswm.gr.jp>

古紙配合率 100%再生紙を使用しています



北海道大学大学院に

「バイオリサイクル工学(クボタ)講座」が開設

平成 15 年 10 月 1 日から 3 年間の予定で、北海道大学大学院工学研究科に「バイオリサイクル工学(クボタ)講座」が開設されました。

本講座では、循環型共生社会の構築を目指してバイオテクノロジーを活用した廃棄物のリサイクルおよび適正処理の技術の開発・実証と総合化・体系化に関する研究を行います。講座開設にあたり、10 月 28 日(火)15 時より北海道大学学術交流会館において、開設式と記念講演会「真の循環型社会と循環システムの形成に向けて」(講師：内藤正明 京都大学名誉教授)を開催します。

問合せ先：北海道大学大学院工学研究科

廃棄物管理工学分野 TEL: 011-706-7284

<http://kanri.eng.hokudai.ac.jp/biocyc/index.htm>

国立環境研究所・国連大学高等研究所主催

第 2 回 アジア地域における資源循環

・廃棄物管理に関するワークショップ

開催日時：平成 15 年 12 月 2 日(火)～12 月 3 日(水)

開催場所：(独)国立環境研究所 大山記念ホール

参加費：無料

連絡先：(独)国立環境研究所 寺園淳

E-mail: terazono@nies.go.jp

事務局だより

今年の夏は原発の停止に伴う電力不足が話題となりました。その後、涼しい夏に終わって、電力危機が回避されました。気象庁の発表によると、北日本の平均気温は、平年を 1 以上下回り、日照時間は、東北地方が平年の 40%から 70%と大きく下回り、東京でも平年の 73%に止まったとのこと。収穫シーズンの到来ですが、実りの秋が、不作に終わることを心配しています。

一方で、8 月 14 日、北米で史上最大の停電が発生し、5000 万人が影響を受けたとのこと。地下鉄が止まり、道路の信号が消えて、交通が麻痺し、超高層ビルのエレベータも止まったといわれます。電力の重要性をつくづく思い知らされる事故です。

また、爆発や火災などの事故も相次ぎ、話題となりました。廃棄物関連では、三重県での RDF 発電所貯留槽の火災・爆発、千葉県での古タイヤ溶融炉の爆発が起き、ともに死傷者が出る災害となりました。

「保安」という言葉には、「現場作業の安全を保つ」の他に、「社会の安寧・秩序を保つ」の意味もあります。廃棄物処理施設の「保安」技術の確立は社会的にも重要な課題であり、その技術開発に向けて廃棄物学会の果たすべき役割には大きなものがあります。問題解決に向けての会員間の連携を期待したいと思います。

(松村治夫 記)